

原子力発電に依存しない社会の実現にむけて

今年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震にともなう東京電力福島第一原子力発電所事故により、多くの人々の生命や人権が脅かされ、苦難の日々が今なお続いております。

真宗大谷派では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌にあたり「今、いのちがあなたを生きている」というメッセージを発信いたしました。そこで、「すべてのいのち、生きらるべし」の願いのもと、左記の要望を申し上げます。

これらの要望の実現にむけて、真宗大谷派としても極力ご協力させていただきたく所存でございます。

記

一、放射能汚染された地域の放射線量を継続的に測定し、住民にお知らせください。そして、故郷で元の生活ができるよう除染を進めてください。

一、除染が不可能な地域においては、特に妊婦、乳幼児、学童・生徒の避難措置を早急に実施してください。

一、住民の被ばくについては、あらゆる観点から外部被ばくと内部被ばくを評価して、長期にわたる健康管理と生活支援を行なってください。

一、原子力発電所事故による放射能飛散と被ばくの痛ましい現実から、原発の誤謬性を思い知らされました。未来を生きる子どもたちのためにも、一刻も早く原発に依存しない社会の実現を推進してください。

以上

二〇一一年十二月二十八日

真宗大谷派

宗務総長 安原 晃

内閣総理大臣

野田佳彦様